## ● 読書感想文コンクール 小学校 1･2･3 学年 の部●

# 教育長賞

角岡　春菜（かどおか　はるな） 大和田小 ３年生

作品名：わたしの弟、へん…かなぁ
図　書：わたしの弟、へん…かなぁ

わたしは、『わたしの弟、へん…かなぁ』という本を読みました。この本をえらんだ理由は、わたしにも弟がいるので、本の中の弟がどんな弟かきになったからです。読んでみたら、すごく感動して、クラスのみんなに知ってほしいと思いました。

この本は、お姉ちゃんのリリと、弟のドードのお話です。ドードは、お母さんのおなかの中で、おもいびょうきになってしまい、ずっと子どものままだけど、やさしいリリがドードにやさしくして、ドードが少しずつ、せい長していく幸せなお話です。

もし、わたしの弟がドードだったら、リリのようにやさしくして、びょうきの弟を大事に思ってあげられるかなぁと思いました。

心にのこった場面は、ふくろうのおじさんがリリに話した、のねずみのふうふがおおあらしの中、家をたてた話の場面です。できた家は、ちょっとくねくねして、へんてこな家だったけど、のねずみのふうふは、がんばってたてた家が大すきでした。それは、へんてこでも、二人でたてた、大事な家だからです。ふくろうのおじさんは、ドードもかたむいた家と同じで、ささえてあげることはできても、ぜったいにまっすぐにはならないよ、今のまんまのドードをすきにおなり、と言いました。この場面を読んでもしわたしがリリだったらすごくホッとする言葉だと思いました。

わたしの弟は、元気いっぱいで、びょうきではないけれど、いつも、あまえてきたり、ときどきわがままを言います。でも、リリみたいに、弟のそういうところもすきになれたら、今よりも大事に思えてもっとなかよくなれると思いました。